

Chikuma 12





二期目就任あいさつ（抜粋）

本日は、朝早くから来賓の皆さまをはじめ職員の方さま、私の二期目の登庁式にお集まりいただき誠にありがとうございます。

振り返りますと、今回は大変厳しい選挙戦でありましたが、多くの皆さまからご支援をいただき、何とか当選をさせていただくことができ、こうして二期目の初登庁となりました。

1期目に一定の評価をいただき、ここにこうして戻ってこられたのは、まさに職員の方さまのおかげでありますので、改めて感謝を申し上げます。

選挙戦を通じてさまざまなことを私も感じました。特に、正しい情報発信をしていたという思いはありましたが、市民の方々にはより丁寧に繰り返し説明をする必要があると思いました。知らせたつもり、分かっていただけというふうになつていたのではないかと、まだまだ説明が不十分であったということに心を刻みました。職員の方々にも同じように心に刻んでほしいと思います。そして、今後さらに丁寧な市政運営に努めてまいりますと考えています。

選挙期間中、私は「すべては市民のた

めに」と繰り返し申し上げましたが、当然、市民の中には職員の方々一人ひとりも含まれています。職員の方々のため、そして、すべての市民の方々のために、私も日頃の仕事をしっかりと今まで以上に頑張つてまいりますので、皆さんにもお力添えをいただきたいと思っております。

常に皆さん一人ひとりを大切にしながら、市長として職務に邁進をしていく所存であります。4年前、私が皆さんに「凡事徹底」ということを申し上げました。改めて、常日頃の仕事において、報告・相談に気軽に来てもらえるような環境づくりが凡事徹底の一つであります。これをさらに徹底していただくと同時に、何かありましたら直接、私にも遠慮なく相談をしていただければと思います。

今、千曲市にはさまざまな課題がありますが、職員の方々一人ひとりと、個人のスキルアップ、レベルアップにぜひ努めてください。もちろん私もスキルアップ、レベルアップに努めてまいります。そして、千曲市のチーム力をさらに高め、強くしていきたいと思っております。

常に信念を持って、問題を先送りせ



ず、目の前の課題解決を創意工夫で実行し、そして実現につなげられる集団にしたいと思っています。ぜひ一緒に頑張つていきましょう。大いに期待をしております。皆さんとともに、これから「全ては市民のために」心躍る新しい千曲市の姿を体現してまいりますので、よろしくお願いたします。本日は誠にありがとうございました。



任期満了にともなう千曲市長選挙が10月20日（日）に告示され、現職の小川修一氏と新人の洞田英樹氏が立候補。7日間にわたる選挙戦が繰り広げられました。

投票は、10月27日（日）に市内43の投票所で行なわれ、即日開票の結果、小川氏が再選を果たしました。

11月11日（月）には、市役所で小川市長二期目の登庁式が行なわれ、大勢の支援者や市職員が拍手で出迎えました。小川市長は、来賓の市議会議員や県議会議員、市職員らの前で「皆さんと一緒に全ては市民のために、心躍る千曲市の姿を体現したいです」と意気込みを語りました。

当	小川 修一	15,510
	洞田 英樹	12,860
		49,459人
		58.17%
		28,370票
		399票
		7,092.5票

最近、テレビやインターネットで「強度行動障がい」について、当事者と、その家族や受入施設など支援者の悩みや課題がクローズアップされています。

また、行政が強度行動障がいを有する人やその家族などに対する支援体制の整備を進め共生社会の実現していくうえで、市民の理解、協力が不可欠です。

障害者週間を機会に、強度行動障がいについて理解を深め、誰もが暮らしやすいまちにしていくなために、障がいが地域で安心して暮らせるよう長年ご尽力されている野口さんに話を聞きました。



福祉課（内線1274）

まず、「強度行動障がい」という医学的な診断用語はありません。「自傷、他傷、こだわり、もの壊し、睡眠の乱れ、異食、多動など本人や周囲の人の暮らしに影響を及ぼす行動が著しく高い頻度で起こるため、特に配慮された支援が必要になってくる状態」を表す言葉で、このような状態に陥っている人たちに必要なサービスを届ける

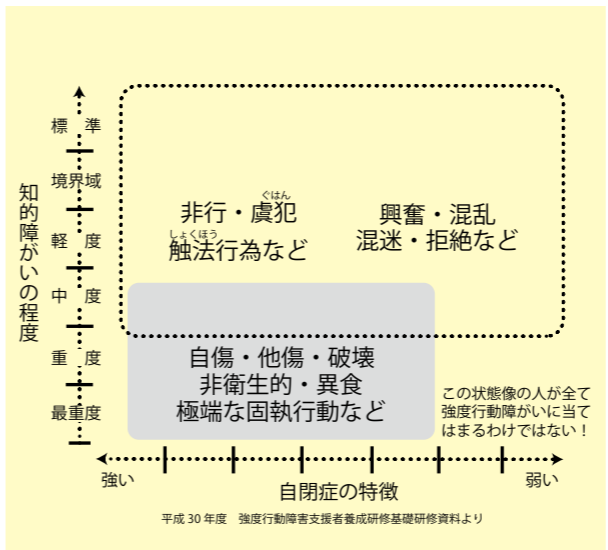
ために造られた行政、福祉用語です。強度行動障がいは後天的に発現する二次的な障がいであり、このような状態となってしまった人たちを「強度行動障がいのある人」と呼びます。

ここで疑問になるのは、「なぜこのような状態となってしまふのか？」だと思いますが、強度行動障がいになりやすい人は統計的に重度知的障がい（IQ34未満）があり、自閉スペクトラム症（*）（以下ASD）を併存している人が多くと言われています。

重度知的障がいの人は、言語や文字などの使用が難しいため、自らの意思を一般的な方法で伝えることが難しく、独自の方法で伝えるたとしても周囲が適切に理解してもらえない状況にある人たちです。

う文化、例えば異国にいきなり連れて行かれ、異国の文化（食、祭事、儀式など）を強要され、従わなければ怒られる。これが毎日続いたら……。人を傷つけたくないのに！物を壊したくないのに！このような状況では、皆さんでも同じような状態になってしまいませんか？

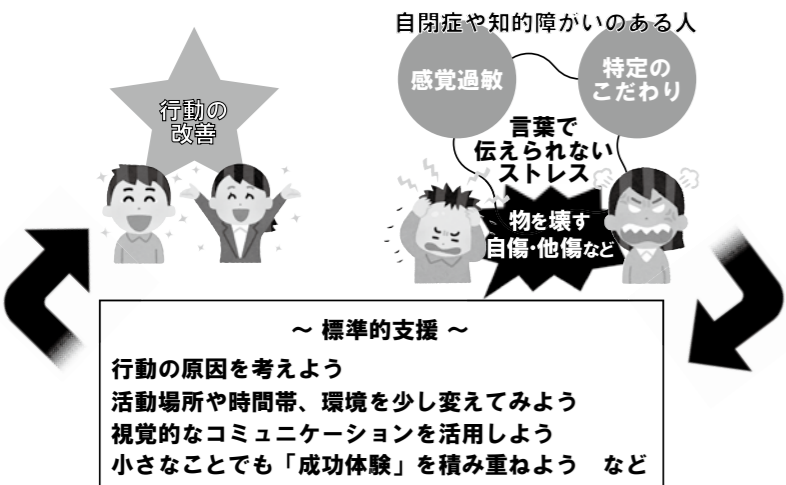
強度行動障がいは、重度知的障がい者やASDの人への理解不足と、偏見から生まれる大多数の一方的な押し付けにより発現する二次的障がいなのです。



平成30年度 強度行動障がい支援者養成研修基礎研修資料より

多様な支援が、もつと地域内に整備されることの重要性を強く感じています。

また、施設や事業所でも効果のない支援に終始し、状態を悪化させている状況がまだまだあります。障がいが支援は閉ざされた狭い世界になりがちです。そういった環境では根拠に基づかない支援方法が横行します。そのため、根拠に基づき、誰もができる支援方法である「標準的支援」の普及が急務となっております。



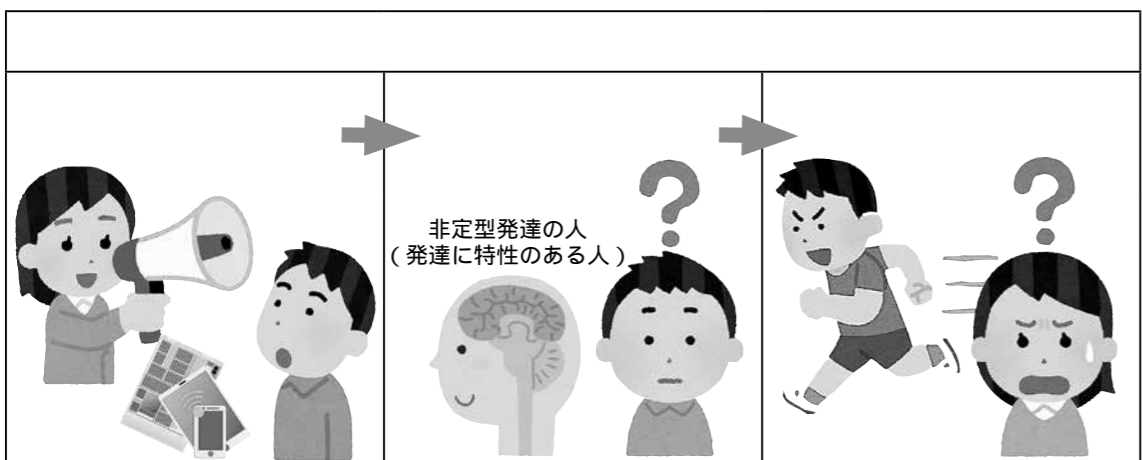
強度行動障がいは後天的なものなので予防は可能です。また、すでに強度行動障がいがあっても、軽減することは十分可能です。現在、国は強度行動障がいのある人に対する標準的支援を全国に普及し、予防と軽減の強化を図っています。

標準的支援は決して難しいものではありません。重度知的障がいとASDの文化を正しく理解し、尊重すること。シンプルですが、これこそが強度行動障がいのある人に対して真の支援となります。

皆さんには、強度行動障がい支援を特別な話とせず、多文化共生（国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと）と考えてほしいです。

強度行動障がいのある人は、決して対立を望んではいません。私たちの文化を知り、尊重しようとしてくれます。私たちも同じ姿勢で関わり、接することが、強

度行動障がいの予防と軽減へとつながり、共生社会の実現が近づくのだと私は思います。





10月16日(水)、持続可能な観光に関する国際認証団体である「Green Destinations」が毎年実施している、「世界中の観光地から持続可能な観光の取り組みに関する優れた事例を募集し、高い評価を獲得した100地域が選出される「Green Destinations TOP100選」に千曲市が選出されました。

評価を受けた千曲市の優良事例は、地域と未来をつなぐ「NEOネオン」で、一般社団法人信州千曲観光局が主体となって立ち上げた「NEOネオンプロジェクト」が、スナックの遊び方や入り方をわかりやすく発信し、新たな若い世代のファンづくりや地域の文化を観光により未来へとつないでいく、持続可能な観光地の取り組みとして評価されました。

長野県庁で開かれた記者会見で小川修一市長は、千曲市が「Green Destinations」のような国際的な認証を受けた団体から選出されることは初めてですので非常に喜



ばしいことです。受賞にあたり尽力いただいた信州千曲観光局や長野県観光機構の皆さん、その他関係者の皆さんに深く感謝します」と話しました。また、一般社団法人信州千曲観光局の小沼浩栄専務理事は、新たな需要・顧客の取り込みを狙い、観光庁と協力し「NEOネオン」の取り組みを始めました。地域外の人でもスナックなどに入っていくやすい環境づくりを目指してきました。今まで取り組んで来たことが評価されたことは素直にうれしいです」と話しました。

叙勲、褒章 受章者を 紹介します

危険業務従事者叙勲 瑞宝双光章

小林 康洋さん(屋代)



昭和50年に県警察官に採用され、主に生活安全部門で勤務。平成22年3月に警視として定年退職するまで、35年間の長きにわたり、地域の安全・安心、治安維持に尽力されました。

危険業務従事者叙勲 瑞宝双光章

矢野 久夫さん
(稲荷山)



昭和45年に県警察官に採用され、主に生活安全部門で勤務。平成23年3月に警視として定年退職するまで、41年間の長きにわたり、地域の安全・安心、治安維持に尽力されました。

危険業務従事者叙勲 瑞宝単光章

宮城 欣司さん(新田)



昭和49年に旧更埴市消防本部に採用され、消防指令長などを歴任。平成26年3月に退職するまで、40年間の長きにわたり、住民福祉と安定秩序に尽力されました。

危険業務従事者叙勲 瑞宝単光章

渡辺 新一郎さん
(屋代)



昭和48年に県警察官に採用され、主に地域交通部門で勤務。平成23年3月に警部として定年退職するまで、38年間の長きにわたり、地域の安全・安心、治安維持に尽力されました。

高齢者叙勲 瑞宝双光章

北島 信平さん(小島)



昭和36年に教員に採用され、旧更埴市立屋代小学校長などを歴任。平成9年3月に退職されるまで、36年間の長きにわたり、教育の振興と進展に尽力されました。